

スタディーツアーの際に、ナロジチのナタネ畑を見学した。昨年の秋蒔きナタネは人間の背丈ほどに成長し、たわわに実っていた。7月11日には無事収穫との報告を受けた。秋蒔きナタネは生育期間が長く収量も多い。結果が楽しみである。今年の春蒔きナタネも花盛りが終りに近づき、こちらから結実を開始していた。ナタネのあとに植えたライ麦も生長し、もうじき収穫される。こうして、汚染土壌でのナタネ栽培は順調である。残るはバイオディーゼルとバイオガス製造装置の建設、運転である。こちらは中々思うように進ずイライラする日々が続く。プロジェクト提案から2年経ったが、考えてみれば結構早いペースではある。

● ナロジチにBDF製造装置が到着、しかし・・

5月にオデッサ港に到着しながら、ウクライナ政府人道支援委員会の許可が下りず、現地に運ぶことが出来なかったBDF装置は、在ウクライナ日本大使館の馬淵大使によるユーシェンコ大統領への直訴書簡などの助力を得て、6月5日ようやく認可が下りた。これで解決と思いきや、オデッサやジトームルの税関の沢山の手続きに振り回され続けた。そして、7月29日、ようやくBDF装置はナロジチに搬送された。この間、書類作成や税関への出頭など、事態解決に奔走して下さった農業生態学大学のティードフ教授と、ホステージ基金のキリチャンスキー、ドンチェヴァ両氏には心から感謝したい。装置はナロジチに到着だが、これですぐに運転出来るわけではない。装置を設置する建物が古く、屋根や床の修理が必要である。こちらの方もすでに必要な書面を提出してから数ヶ月がたつが、一向に着工認可が下りず、工事開始が遅れているのである。

● ソ連は崩壊したが・・・・・

ソ連が崩壊して久しいが、現在のウクライナには当時の官僚制度がほとんどそのまま温存されているようだ。全てに必要な申請と認可の数々に国民は振り回されている。そんな制度には必ず汚職と賄賂が付きまとうのも常識。最近の中日新聞によれば、五輪が近い中国の大きな課題のひとつは官僚や警察の横暴と汚職だという。同紙によれば中国では汚職は文化、賄賂は社会の潤滑油だという。日本も最近の状況をみれば綺麗とは言い難いが、旧共産圏には一様に

同じ問題があるようだ。それは官僚の腐敗が原因である。これまで、医薬品や医療機器などの救援物資を送り続けてきた間にはこうした問題に遭遇することはなかった。あるいは知らなかっただけかもしれない。菜の花プロジェクトを始めて、改めて我々はウクライナの官僚制度の非効率に直面しもがいているが、それは我々だけではない。ナロジチの街中で会う一般住民の行政機関への不信は並々ならぬものがある。彼等は数十年の長きに渡ってこうした困難と戦ってきたのだと思う。

● それでもプロジェクトは進む

こうした困難はあるものの、プロジェクトは着実に進むと考えている。今後3年間にバイオディーゼル油の生産とバイオガスの生産を軌道に載せ、住民の利益に供することは可能である。ウクライナにもこのプロジェクトの意味を理解し、困難や問題に取り組む我々を助けてくれる人々がいるからである。今後の大きな課題は、バイオディーゼル油やバイオガスをどのように利用し、ナロジチで定着させるか、ナタネの栽培規模を拡大し土壌浄化を進めるか、を住民との話し合いで進めていくことである。昨年、ウクライナ政府も汚染地域の復興計画を策定した。このプロジェクトはウクライナ政府にとっても先行的な事業となろう。ナタネ栽培は今やウクライナに定着し、今年の栽培面積は180万ヘクタール、世界で5番目に成長した。バイオディーゼルの国内生産も始まった。最近、ティモシェンコ首相は、ウクライナにおけるバイオガス生産の重要性について述べている。(河田)